

# 横浜国際港都建設審議会

## 第1回 起草委員会

### ～第1回の審議の進め方～

各部会の中間取りまとめについて全体調整し、都市像の枠組みや目指すべき方向性などについて審議します。

### 1 各部会の審議分担について

～ 資料1『横浜国際港都建設審議会（部会）における審議分担』～

### 2 各部会における中間取りまとめについて

各部会において中間的に取りまとめた横浜の目指すべき都市像のイメージとその方向性について、事務局から報告します。

～ 資料2『各部会における都市像のイメージ（中間取りまとめ要旨）』～

### 3 中間案の審議

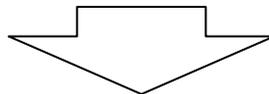
各部会における都市像のイメージについて重複などを総合調整し、審議会として掲げる都市像の枠組みやその方向性について審議していただきます。

～ 資料3『横浜の目指すべき都市像について』～

～ 資料4『長期ビジョンの全体構成イメージ』～

(参考資料) 各部会 中間取りまとめ

今後の進め方（参考）



### …第2回総会・第4回部会…

第1回起草委員会の審議を踏まえ、事務局が中間案のたたき台を作成し、起草委員会各委員と個別に調整させていただいたうえで、起草委員会としての中間案を作成し、第2回総会及び第4回部会（10月5日同日開催）において審議します。

平成17年9月13日

# ～長期ビジョン素案策定までの流れ～

## イメージ図

### 市民相互の議論の場

### 横浜国際港都建設審議会

#### 総会・各部会

#### 起草委員会

**「横浜の未来を考える」シンポジウム**  
7月24日(日)  
(第1部)竹中大臣基調講演/中田市長他によるパネルディスカッション (第2部)市民相互による意見交換会

**「横浜発！市民が提案する新未来構想プロジェクト」立ち上げ**  
7月31日(日)  
・7グループによる議論開始

**「横浜会議 長期ビジョン研究会」第1回開催**  
8月5日(金)

第1次案提出

**「市民提案発表会」**  
11月3日(木・祝)

意見提案書とりまとめ

パブリックコメント

**第1回総会**  
6月21日(火)  
・各部会設置他  
**第1回各部会**  
・審議の開始

**第2回各部会**  
・都市像の整理に向けた素材出し  
第1部会:8月1日(月)  
第2部会:7月29日(金)  
第3部会:7月25日(月)

**第3回各部会**  
・都市像等の審議  
・中間とりまとめ  
第1部会:9月2日(金)  
第2部会:9月8日(木)  
第3部会:8月31日(水)

**第2回総会**  
10月5日(水)  
・中間案報告他  
**第4回各部会**  
・中間案審議

**第5回各部会**  
・都市像の審議  
・施策の基本方向審議  
第1部会:11月14日(月)PM  
第2部会:11月8日(火)  
第3部会:11月14日(月)AM

**第3回総会**  
12月6日(火)  
・答申案議決  
・答申

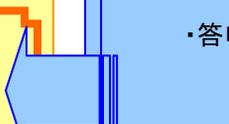
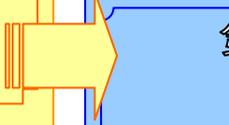
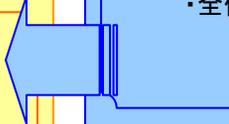
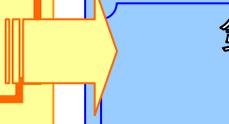
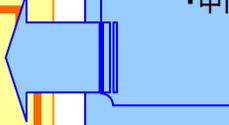
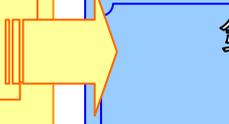
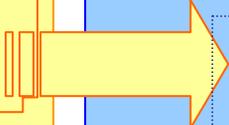
**各委員**  
(調整)

**第1回**  
9月13日(火)  
・全体調整審議  
・中間案作成

**第2回**  
・全体調整

**第3回**  
・答申案確定

議論の経過を情報提供

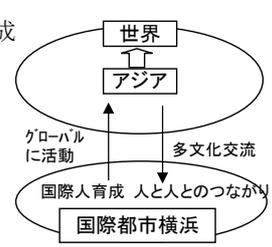
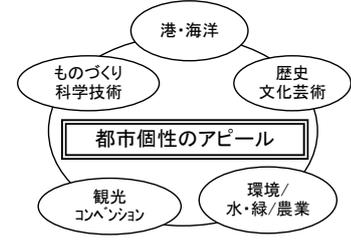


## 横浜国際港都建設審議会(部会)における審議分担

部会	主な審議事項	＜参考＞21世紀ビジョン (経済財政諮問会議)
第1部会 (少子高齢化関連)	<p>少子高齢化の進行や人口減少社会の到来に向け、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子育てや青少年などに対する社会的支援</li> <li>○高齢者や障害者などが安心して生活できる福祉</li> <li>○患者本位の医療や健康づくり</li> <li>○多様な働き方や就業支援、キャリア教育</li> <li>○基礎学力や人間力の向上など生涯を通じた教育</li> </ul> <p>などの視点から、横浜が目指すべき社会の姿を描き、そのための施策の方向を検討します。</p> <p>※少子高齢社会における都市整備は第2部会、地域コミュニティの再生や地域の支えあいの仕組みづくりについては第3部会で主に審議します。</p>	<p>＜目指すべき将来像＞ 「時持ち」が楽しむ「健康寿命80歳」</p> <p>＜採るべき具体的行動＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①健康で生き生きとした生活を実現する</li> <li>②多様な個人の選択を支援する</li> <li>③安心安全を確立する(治安・格差・子育て)</li> <li>④地域社会を再生する</li> </ol>
第2部会 (グローバル化関連)	<p>社会経済のグローバル化が急速に進行する中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目指すべき横浜の産業構造</li> <li>○東アジアを中心とした国際的な都市間競争と交流</li> <li>○文化・芸術を中心とした創造性ある街づくりや魅力ある都市景観の形成</li> <li>○地球規模の環境問題への取組みと身近な自然環境を活かしたまちづくり</li> <li>○都市機能の強化や都市基盤整備</li> </ul> <p>などの視点から、横浜が目指すべき都市の姿を描き、そのための施策の方向を検討します。</p> <p>※社会経済がグローバル化する中で、雇用や就労のあり方、キャリア教育などについては第1部会で主に審議します。</p>	<p>＜目指すべき将来像＞ 開かれた文化創造国家</p> <p>＜採るべき具体的行動＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①人間力を高める教育を築く</li> <li>②知的基盤を確立し、イノベーションを広げる</li> <li>③財・人・資本の円滑な流れを確保する(東アジア・外国人労働者・農業)</li> <li>④地球規模の課題解決において主導的な役割を果たす</li> <li>⑤効果的な対外戦略のための体制を整備する</li> </ol>
第3部会 (地域自治・公共の創造関連)	<p>少子高齢化や社会経済のグローバル化が急速に進行し、市民生活において不安感や緊張感が高まっている中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家族や地域、企業、行政の役割分担</li> <li>○地域における支えあいの仕組みなど地域コミュニティの再生</li> <li>○防犯、防災など地域の支えあいによる安全・安心なまちづくり</li> <li>○市民に身近な区役所の役割や広域的課題に対する県、近隣市町村との連携</li> <li>○効率的な行政運営と持続可能な財政</li> </ul> <p>などの視点から、横浜を支える個人、団体、企業、行政のあるべき姿を描き、そのための施策の方向を検討します。</p> <p>※犯罪や災害に強いまちをつくるための都市整備については、第2部会で主に審議します。</p>	<p>＜目指すべき将来像＞ 豊かな「公」・小さな官</p> <p>＜採るべき具体的行動＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①小さく効率的な政府を実現する</li> <li>②社会保障制度の持続可能性を高める</li> <li>③地域主権を確立する</li> <li>④社会的な価値が創造される環境を整備する</li> <li>⑤リスクをチャンスにつなげる金融を実現する</li> <li>⑥法意識醸成するとともにルール(法)の実効性を確保する</li> </ol>

起草委員会	各部会の審議を総合調整し、長期ビジョンの素案となる答申案を作成します。
-------	-------------------------------------

# 各部会における都市像のイメージ(中間取りまとめ要旨)

	都市像のイメージ	都市像の視点や方向性など
第1部会 (少子高齢化関連)	誰もが集い、住み続けられる魅力あふれる都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就職や就学など生活環境が変化しても、住み続けたいと感じる生活満足度の高いまち</li> <li>○外国人なども含め、誰がいつ来ても地域に受け入れられるまち</li> <li>○学生や子育て世帯などのニーズに応じた生活・就労環境をつくりだし、若者に魅力ある都市</li> <li>○多様な職・住環境が選択でき、個性ある地域が豊富にある都市</li> <li>○高齢者が、世代間交流や市民活動などにより地域のなかで支え合いながらいきいきと暮らせるまち</li> <li>○高齢者が、豊富な知識や経験を地域に活かすことができる環境づくり</li> </ul>
	みんなにあたたかく見守られ、子どもたちがいきいき育つ都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちが地域のなかで育ち、身近に子どもがいる楽しさを感じられる都市</li> <li>○子育てに関する様々な不安や負担を解消し、子どもの成長をみんなで見守る社会</li> <li>○子どもとともに家族の絆や夢を共有できる、ゆとりある家庭生活ができる社会環境</li> <li>○子どもがのびのびと遊び、学べる安全な地域</li> <li>○子育てしやすい住環境や子育てバリアフリーのまち、子どもへの医療が充実した都市</li> <li>○仕事と子育ての両立支援を含め、多様な生活環境に応じた充実した子育て支援がある都市</li> </ul>
	充実した学びにより、一人ひとりが意欲に応じて能力を高められ、豊かな人生を送れる都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個性やニーズに応じた学びの機会の充実により、誰もが存分に意欲を伸ばし成長していける都市</li> <li>○学校と家庭や地域が連携し、共に人を育てるまち</li> <li>○あらゆる教育資源が効果的に連携し、多様なニーズに応えられる教育システムを持つ都市</li> <li>○年齢などにかかわらず、豊富な学びの機会と再挑戦できる教育システムをもつ都市</li> <li>○地域コミュニティを支える人材が育ち、身につけた技術や能力を多様な場で活かせるまち</li> <li>○グローバルな視点を持った国際性豊かな人材が育つ都市</li> <li>○日本や横浜の歴史や文化を理解し、世界の人々とコミュニケーションがとれる人材が育つ都市</li> </ul>
	多様な富んだ労働環境のもと、個性に合った働き方を選択でき、何度でも挑戦できる都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個性や能力に応じた職業選択ができる仕組みや、多様な労働形態がある都市</li> <li>○就労につながりやすい教育や地域活動などを充実し、若者が社会に出やすい環境づくり</li> <li>○性別や国籍などにとらわれずに、多様な職業やライフスタイルが選択できる社会</li> <li>○就労と家庭を切り離さず、みんなが自分のペースで働き、かつ充実した家庭生活をおくれる社会</li> <li>○子育てや介護など、生活環境が変わっても働き続ける選択ができる、柔軟な労働環境</li> <li>○必要な知識や技能を身につけられる、スキルアップの機会が豊富にあるまち</li> <li>○個性ある豊富な人材が、その能力を最大限発揮できる場と機会のある社会づくり</li> </ul>
	誰もがゆっくり、ゆったりと安心して暮らせる都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少社会に対応した持続可能な福祉・医療制度のもと、安心した生活と社会活動ができる都市</li> <li>○介護が必要な人も障害がある人も、自らの選択により地域で安心して自立した暮らしをおくれる社会</li> <li>○防犯や防災など、安心を支える充実した機能をもつ都市</li> <li>○バリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりなど、誰にでもやさしい都市環境</li> <li>○障害の有無や国籍、年齢や性別にかかわらず、意欲に応え、能力が発揮できる機会がある社会</li> <li>○高齢者や女性の意欲や能力がいかんなく発揮され、活躍できるまち</li> </ul>
	多様な地域の担い手が活発に活動し、互いに連携しながら発展する都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報や人的資源の充実と、多様な組織や個人が適切に役割分担をすることで、活発な市民活動を展開</li> <li>○企業と地域の連携を進め、特色ある地域づくり</li> <li>○地縁型ネットワークとテーマ型ネットワークが融合し、活力ある地域づくり</li> <li>○世代間でお互いに助け合い、連携することにより、安心した地域生活を実現していく社会</li> <li>○世代間のバランスがとれた地域コミュニティが実現できるまちづくり</li> <li>○地域の大人や子どもや外国人が交流できる地域のネットワークづくり</li> <li>○外国人にとって暮らしやすい環境が整った国際都市</li> <li>○横浜ならではの文化や歴史を活かし、地域の魅力づくり</li> <li>○地域の特徴に応じた魅力ある生活・活動環境を実現できる地域づくり</li> </ul>
第2部会 (グローバル化関連)	「横浜人＝国際人」が暮らし、国際人を育み、世界の人から選ばれる都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバルな視点を持った人材の集積やグローバルに活動する人材の育成</li> <li>○地球市民として環境、人権、貧困などに取組む、意識を持った人材育成</li> <li>○オープンな、ボランティアな心(意識)の国際性</li> <li>○人のつながりから都市のつながりへの展開</li> <li>○国籍に関わらず暮らしやすい生活環境の整備</li> <li>○世界の人とのコミュニケーション能力の向上</li> <li>○自国や地域の歴史や文化の理解のための教育推進</li> <li>○横浜の技術力や市民力を活かした国際貢献の推進</li> </ul> 
	国際港都横浜の持つ独自の多彩な個性を、世界にアピール(発信)し、活性化する都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界標準化が進む中で、地域固有性の尊重</li> <li>○「横浜らしさ」や横浜の強みの明確化</li> <li>○東京にない個性、ミニ東京ではない独自性</li> <li>○世界に誇れる魅力・活力・創造力の発見と充実</li> <li>○歴史や異国情緒のある街並みと先進的な都市空間の活用</li> <li>○文化芸術活動を支える都市環境や創造的な都市づくり</li> <li>○空港や港の良い立地条件を活かし、空港、港、道路、鉄道が一体的に機能する都市構造の整備</li> <li>○横浜港の親しみのある港の機能と競争力ある港湾機能</li> <li>○空の港と海の港を使ったアジアとの連携強化</li> </ul> 

	都市像のイメージ	都市像の視点や方向性など
第2部会 (グローバル化関連)	<p><b>職と住と楽が近接し、利便性と快適性のある暮らしやすく働きやすい都市</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職 →女性や高齢者、ニートなども働きやすい</li> <li>○住 →ニーズに合った多様な住みよい住宅地</li> <li>○楽 →可処分時間の増加＝遊び+学び+憩いなど多様な機会の提供</li> <li>○近接→移動ししやすい公共交通機関を活かし、主要駅を中心としたコンパクトな土地利用、地域づくり 一方で、不便であっても、豊かな自然の中での暮らしを選択できる都市づくり</li> <li>○暮らしやすい住宅地だけではなく、働きやすい就業地の環境づくり</li> </ul>
	<p><b>住環境や歴史的資源など多様な地域の特性を反映しながら、住民自らのまちづくりが活発に展開される都市</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の資源(歴史・文化・水と緑・景観など)、魅力の発見</li> <li>○住民主体の手作りの環境づくりやイベント</li> <li>○地域の課題に対応した市民参加のまちづくり</li> <li>○地域コミュニティによるエリアマネジメント、まちのルールづくり</li> <li>○それぞれの地域で魅力的な活動(仕事、文化、消費など)や暮らしができるまちづくり</li> <li>○18区役所を中心とした協働のまちづくり</li> <li>○農地を農業機能だけでなく、環境など様々な機能の活用</li> </ul>
	<p><b>地域から地球に広がる環境問題に対し、市民や企業が自ら環境行動を考え推進する持続可能な都市</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境と経済のバランス</li> <li>○エコロジーとエコノミーの調和、環境共生の視点</li> <li>○サステナブル(持続可能)な都市づくり</li> <li>○G30、省エネルギー、クールビズなど環境に優しいライフスタイルへの転換</li> <li>○豊かな自然環境の保全・創造</li> <li>○あらゆる環境に関する情報発信や人が集う「環境のみなど」</li> </ul>
	<p><b>市民が参加意識を持ち、地域社会への貢献を尊重し、改革のために考え行動する都市</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークライフバランス(市民、企業、行政の新たな役割分担)の実現 市民→より高次元の欲求(社会との関わり・自己実現等)を満たす社会貢献 地域社会への参加の重要性の認識、個人の成長と他人の成長支援 企業→CSR(企業の社会的責任)視点での地域社会への積極参加 地域社会とのつながり、新しい働き方の提案や雇用機会の提供 行政→ビジョン達成への求心力とリーダーシップ 健全な危機感の醸成、変革の必要性・方向性の提示</li> </ul>
第3部会 (地域自治・公共の創造関連)	<p><b>すべての市民が地区経営に参画する都市</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の市民、自治会・町内会(地縁的組織)、NPO等の団体(課題的組織)などが相互に理解し協力 →主体的に地区経営に参画する仕組みづくり</li> <li>○市民が収入と支出の関係など、都市を経営する視点からサービスを選択</li> <li>○市民が中心となって、地区に必要な公共サービスの量や、そのサービスの提供を担う主体などについて合意形成できる仕組みづくり</li> <li>○地区を経営するうえで必要な施策と、全市的な観点から必要となる施策の相互にバランス →最も効果的な施策を選択</li> </ul>
	<p><b>市民が自発的に、様々な形で、社会的責任を果たせる都市</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民が、行政と役割分担や協働をしながら、自発的に社会的責任を果たす →人口が多いという横浜の社会的資源が最大限に活かし、公共サービスを充実</li> <li>○「おたがいさま」の精神で、社会的責任を果たすことができる地域づくり →介護サービスへの参加などの社会貢献活動を含め、個々の市民が自らの力を発揮できる方法で社会的責任を果たす</li> <li>○相互扶助の地域社会づくり →サービスの受け手と提供者が完全に分離するのではなく、例えば元気な高齢者や障害者の方々が、サービスを提供する側として活躍できるような地域社会</li> </ul>
	<p><b>柔軟性を持ち、新しい発想が生まれ出される地域コミュニティがある都市</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ずっと住み続けている人と新しく横浜へ来る人が、共に支え合いながら身近な問題を解決し、融合する中から新しい発想が生まれ出され、多様な価値感が認められる社会づくり →「3日住めばはまっこ」という、柔軟に人を受け入れて来た横浜の歴史と特徴をさらに活かす</li> <li>○「地縁型」や「テーマ型」など多様なコミュニティの単位が存在し、その地域の市民参画を進めやすいまちづくり →紋切り型な「区」とか「地域」とかを作るのではないまちづくり</li> <li>○「職住コミュニケーション」の活発なまちづくり →地域の企業の従業員や市職員、学校の教師、警察官などが、地域住民と一緒に活動</li> </ul>
	<p><b>「市民力」と「横浜型小さな政府」によって、多様で質の高いサービスが持続的に提供される都市</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様化する市民ニーズに対して、専門性を有する企業や、地域に精通した市民団体などが主体的に関わることによって、きめ細かな対応ができるまちづくり</li> <li>○公共サービスの担い手を拡大・育成し、行政は本来行うべき業務に集中する効率的なシステム(＝「横浜型小さな政府」)を構築・持続</li> <li>○行政が引き続き役割を担う部分についても、市民の参画が最大限に行われる仕組みとするとともに、透明性が高く、点検と改善を必ず実施する組織運営</li> <li>○区役所の役割・あり方を再検証し、区役所を現在の行政枠に収まらない弾力的な制度</li> </ul>
	<p><b>横浜らしさを発揮した政策を自ら考え実行するとともに、他都市と連携しながら広域的な課題の解決に主体的に取り組む都市</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○横浜らしさを最大限に発揮する政策を打ち出すために、国や広域自治体に依存せず、自ら政策を立案し、実施し、責任を持つ自立した都市づくり</li> <li>○他都市とも連携・協力しながら広域的な課題に対する責任を果たすとともに、日本最大の都市として、周辺自治体や国の発展に対する社会的役割を担う</li> </ul>

## 横浜の目指すべき都市像について

## &lt;各部会における都市像のイメージについて&gt;

	都市像のイメージ	概要
第1部会 (少子高齢化関連)	誰もが集い、住み続けられる魅力あふれる都市	(ライフステージと生活環境) 誰もが集い、住み続けられる都市の実現と、誰がいつ来ても地域にとけ込み生活できるまちを目指す
	みんなに愛され、子どもたちがいきいき育つ都市	(子どもがいきいきのびのび育つまち) 子どもがいきいきと育つあたたかい地域と都市環境の実現と、子どもの成長をみんなで見守る都市を目指す
	充実した学びにより、一人ひとりが意欲に応じて能力を高められ、豊かな人生を送れる都市	(充実した学びと豊かな人生) 誰もが意欲に応じて教養や能力を高められ、自己実現や社会貢献を通じて豊かな人生をおくれる都市を目指す
	多様性に富んだ労働環境のもと、個性に合った働き方を選択でき、何度でも挑戦できる都市	(個性に合った働き方) 働くことの大切さや意義の認識と、誰もが個性に合った多様な働き方を選択でき、何度でも挑戦できる社会の実現
	誰もがゆっくり、ゆったりと安心して暮らせる都市	(安全・安心社会) 誰でもどんなときでも、ゆっくり、ゆったりと心豊かに生活をおくることができる安心社会の実現
	多様な地域の担い手が活発に活動し、互いに連携しながら発展する都市	(世代間・異文化交流と特色ある地域) 市民、団体、企業などの地域の担い手の効果的な連携による特色ある魅力的な地域づくり。また、首都圏やアジアにおける横浜の役割、位置づけを活かした魅力あるまちづくり
第2部会 (グローバル化関連)	「横浜人＝国際人」が暮らし、国際人を育み、世界の人にも愛される都市	(国際人・人材育成) 真の国際化を目指すという観点から、国際都市における人と人とのつながりや国際人としての人材育成など
	国際港都横浜の持つ独自の多彩な個性を、世界にアピール(発信)し、活性化する都市	(横浜アピール) 国際都市としての魅力や活力を高める観点から、横浜らしさ・個性など
	職と住と楽が近接し、利便性と快適性のある暮らしやすく働きやすい都市	(暮らしやすい都市構造) 望ましい都市構造の観点から、暮らしやすさ、働きやすさ、企業活動しやすさなど
	住環境や歴史的資源など多様な地域の特性を反映しながら、住民自らのまちづくりが活発に展開される都市	(地域まちづくり) 市内各地域の魅力を発揮する観点から、地域資源を活かしたまちづくりなど
	地域から地球に広がる環境問題に対し、市民や企業が自ら環境行動を考え推進する持続可能な都市	(環境行動) 環境と経済の調和や持続性ある発展の観点から、市民一人ひとりの環境行動など
	市民が参加意識を持ち、地域社会への貢献を尊重し、改革のために考え行動する都市	(実現方策) 市民が主役という観点から、市民に期待されることや、市民、企業、行政の役割分担など
第3部会 (地域自治・公共の創造関連)	すべての市民が地区経営に参画する都市	(地域自治) 地域のことは地域で解決する観点から、新たな地区経営の仕組みづくりなど
	市民が自発的に、様々な形で、社会的責任を果たせる都市	(相互扶助) 個々の市民が社会的責任を果たす相互扶助の地域社会づくりなど
	柔軟性を持ち、新しい発想が生み出される地域コミュニティがある都市	(地域コミュニティ) 「地縁型」や「テーマ型」など多様なコミュニティの単位が存在するまちづくりなど
	「市民力」と「横浜型小さな政府」によって、多様で質の高いサービスが持続的に提供される都市	(都市経営) 多様で質の高い公共サービスが持続的に提供される都市づくりなど
	横浜らしさを発揮した政策を自ら考え実行するとともに、他都市と連携しながら広域的な課題の解決に主体的に取り組む都市	(自立した都市) 国等へ依存せず、周辺都市と連携を図りながら、自ら政策を立案し、実施し、責任を持つ自立した都市など

## 《都市像の整理》

- 「目指すべき都市像」の枠組みや目標
- 横浜らしいフレーズやキーワード

など

## (参考)

## 「横浜市基本構想」(昭和48年)の都市像

## (1) 総合的機能をもつ国際平和都市

横浜の特徴は、なんといつても日本の門戸として海外へ大きく開いた目もち、その国際性によって発展を続けてきたことです。まずまず世界はひとつになつてゆく情勢の中で、横浜は、さらにその国際性を生かし、文化的に、経済的に、その他あらゆる面で、より広くより深く日本と世界をつなぐ役割を果たすとともに、積極的に世界の平和に貢献します。

また、横浜は、住・商・工・港など多くの機能をもつ大都市です。これらの機能が相互に矛盾することなく調和し、均衡のとれた状態で存立する総合的機能をもつ大都市をめざします。

## (2) 生活環境を中心においた人間環境都市

世界の大都市は、いま、さまざまな面で深刻な都市問題に直面しています。それは、人間の生活そのものを危うくする問題です。横浜は、常に市民生活をこれらの危険から守り、生活環境を中心とする内容の充実した人間環境都市をめざします。

## (3) 広域大都市圏の中の中核都市

東京の無秩序なスプロール化は、横浜をおおいつつありますが、一点だけに集中した過大都市を形成するのは好ましくありません。これを適正な範囲でくいとめ、大都市圏を、いくつかの都市圏ブロックに分けた構造にする必要があります。その場合、横浜は、ひとつの都市圏ブロックの中核としての機能を備え、大都市圏の他の中核と相互に有機的な関係をもつことをめざします。

また、東京湾諸港の中での中枢管理機能を高めるとともに、東京湾岸地帯との連携を強めます。

さらに、各自治体の自主性を相互に尊重しつつ、互いに連合して、広域的な問題の解決をはかります。

## (4) うるおいといこいのある人間性豊かな福祉都市

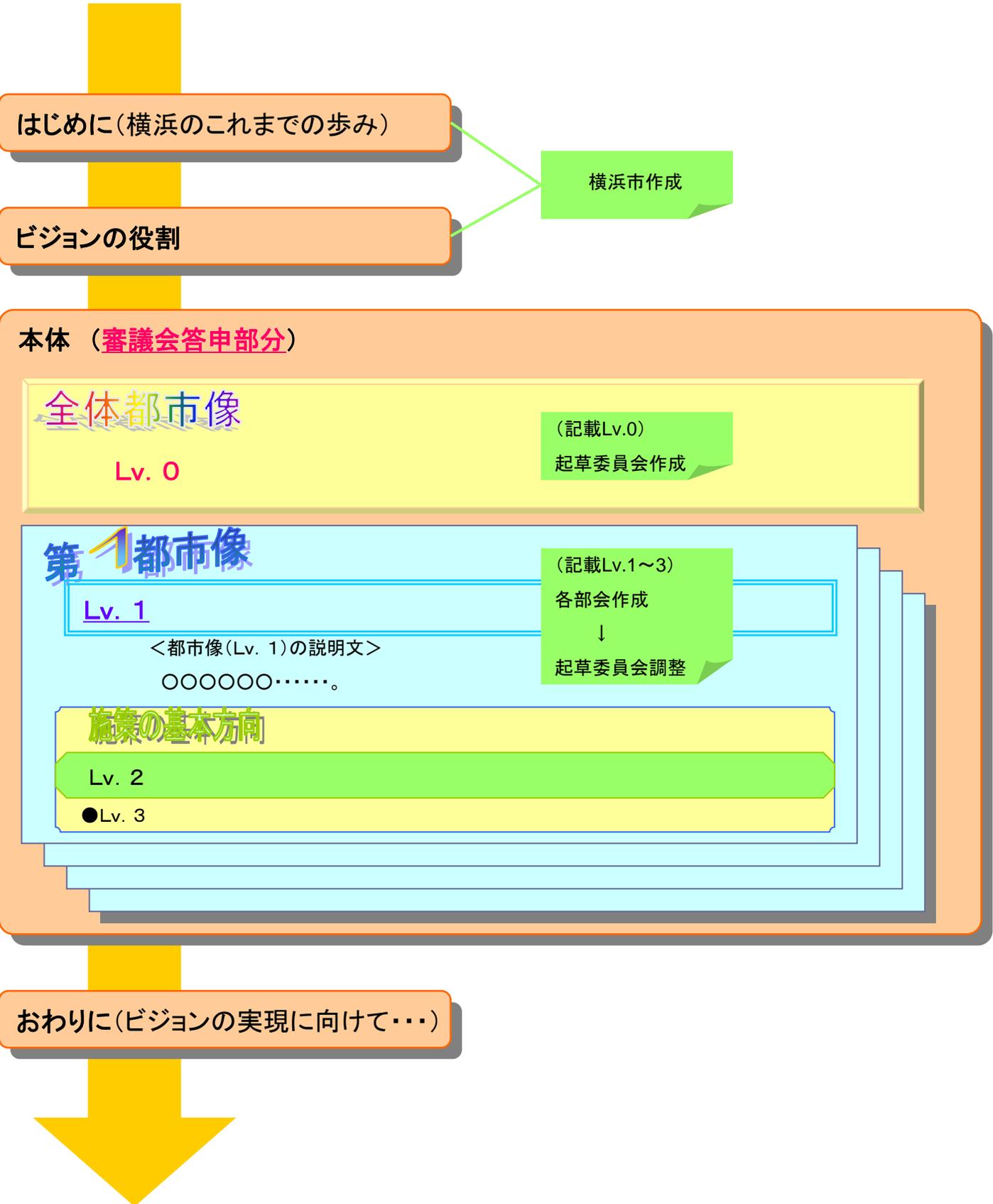
都市は、本来人間の生活を豊かにするものです。横浜は、人間性を尊重し、とりわけ子供や老人を大切にします。そして、すべての人々にとって、健康で豊かな都市、うるおいといこいのある明るい都市、人間性あふれる福祉都市をめざします。

## (5) 市民による市民のための市民都市

近代都市は、市民生活を優先的に考え、市民全体のための計画的行政を行ないます。横浜は、政治の中心地や城下町として発展したのではなく、すべて市民の力によって築かれてきた都市です。

わたくしたちすべての市民は、積極的に参加してこの特質を生かし、市民を主体とした日本の先進的自治体として、生き生きとした市民都市を築きます。

～ 長期ビジョンの全体構成イメージ ～



# 第1部会

(少子高齢化関連)

## 中間とりまとめ

## 都市像の方向性 1

### 誰もが集い、住み続けられる魅力あふれる都市

<都市像説明>

要旨：魅力ある都市づくりにより、誰もが集い、住み続けられる都市を実現します。また、長く居住するほどメリットを感じる施策を展開し都市の活力を維持するとともに、誰がいつ来ても地域にとけ込み生活できるまちを目指します。

### 施策の方向性

#### 誰もが住み続けたいと感じる環境を整備し、まちの魅力を高めます

- 就職や就学など生活環境が変化しても、住み続けたいと感じる生活満足度の高いまちを目指します。
- 住み続けることが生活の充実や自己実現につながるまちを目指します。
- 外国人なども含め、誰がいつ来ても地域にとけ込み生活できるまちを目指します。

#### 若者に魅力ある生活環境を創出します

- 学生や子育て世帯などのニーズに応じた生活、就労環境をつくりだし、若者に魅力ある都市を目指します。
- 多様な職・住環境を選択できる、個性ある地域が豊富にある都市を目指します。
- 住みやすく、若者の活力にあふれた都市の魅力を積極的に発信します。

#### 高齢者が地域でいきいきと暮らしていけるまちを実現します

- 高齢者が、世代間交流や市民活動などにより地域のなかで支え合いながらいきいきと暮らせるまちを実現します。
- 高齢者が、豊富な知識や経験を地域に活かすことができる環境を実現します。

## 都市像の方向性 2

### みんなにあたたかく見守られ、子どもたちがいきいき育つ都市

<都市像説明>

要旨：子どもがいきいきと育つあたたかい地域と都市環境を実現するとともに、社会全体で子育てを支援し、子どもの成長をみんなで見守る都市を目指します。

### 施策の方向性

#### 子どもたちがみんなに見守られ、すくすくのびのび育てる社会を実現します

- 子どもたちが地域のなかで育ち、身近に子どもがいる楽しさを感じられる都市を実現します。
- 子育てに関する様々な不安や負担を解消し、子どもの成長をみんなで見守る社会を目指します。
- 子どもとともに家族の絆や夢を共有できる、ゆとりある家庭生活ができる社会環境をつくれます。

#### 子育てしやすい生活環境を実現します

- 子どもがのびのびと遊び、学べる安全な地域をつくれます。
- 子育てしやすい住環境や、子育てバリアフリーのまちを目指します。
- 子どもへの医療が充実した都市を目指します。
- 仕事と子育ての両立支援を含め、多様な生活環境に応じた充実した子育て支援がある都市を目指します。

## 都市像の方向性<sup>3</sup>

### 充実した学びにより、一人ひとりが意欲に応じて能力を高められ、豊かな人生を送れる都市

<都市像説明>

要旨：誰もが意欲に応じて教養や能力を高めることができ、自己実現や社会貢献を通じ、生きがいのある豊かな人生をおくれる都市を目指します。

### 施策の方向性

#### 誰もが充実した学びにより心豊かに成長していける、教育充実都市を実現します

- 一人ひとりの個性やニーズに応じた学びの機会の充実により、誰もが存分に意欲を伸ばし成長していける都市を目指します。
- 時代や社会の変化に柔軟に対応した、良質な教育がある都市を目指します。
- 学校と家庭や地域が連携し、共に人を育てるまちを目指します。

#### 子どもから高齢者まで生涯にわたる学びの機会が充実し、豊かな人生をおくれることができる都市を実現します

- あらゆる教育資源が効果的に連携し、多様なニーズに応えられる教育システムを持つ都市を目指します。
- 年齢などにかかわらず、豊富な学びの機会と再挑戦できる教育システムを持つ都市を目指します。
- 地域コミュニティを支える人材が育ち、身につけた技術や能力を多様な場で活かせるまちを目指します。

#### 国際性豊かな人材が育ち、世界から人々が集う都市を実現します

- グローバルな視点を持った国際性豊かな人材が育つ都市を目指します。
- 日本や横浜の歴史や文化を理解し、世界の人々とコミュニケーションがとれる人材が育つ都市を目指します。

## 都市像の方向性<sup>4</sup>

### 多様性に富んだ労働環境のもと、個性に合った働き方を選択でき、何度でも挑戦できる都市

<都市像説明>

要旨：働くことの大切さや意義を誰もがきちんと認識することが重要となります。また、充実した就労支援のもと、誰もが個性に合った多様な働き方を選択でき、かつ、何度でも挑戦できる社会を実現します。

### 施策の方向性

#### 労働に関する豊富な情報や機会を得られ、多様な職業やライフスタイルが選択できる社会をつくれます

- 仕事の情報や体験を通じて、個性や能力に応じた職業選択ができるしくみをつくれます。
- 就労につながりやすい教育や地域活動などを充実し、若者が社会に出やすい環境をつくれます。
- 多様な産業の育成や集積などにより、多様な労働形態がある都市を目指します。
- 性別や国籍などにとらわれずに、多様な職業やライフスタイルが選択できる社会を目指します。

#### 生活環境などに応じた就労ができる、多様な働き方ができる社会をつくれます

- 就労と家庭を切り離さず、みんなが自分のペースで働き、かつ充実した家庭生活をおくれる社会を実現します。
- 子育てや介護など、生活環境が変わっても働き続ける選択ができる、柔軟な労働環境を実現します。

#### 才能や能力を活かし、何度でも挑戦できる社会をつくれます

- 必要な知識や技能を身につけられる、スキルアップの機会が豊富にあるまちを目指します。
- 個性ある豊富な人材が、その能力を最大限発揮できる場と機会のある社会を実現します。
- 誰もが何度でも挑戦できる環境があり、また挑戦を応援する気風にあふれる都市を目指します。

# 都市像の方向性 5

## 誰もがゆっくり、ゆったりと安心して暮らせる都市

<都市像説明>

要旨：都市の活力である市民が、誰でもどんなときでも、ゆっくり、ゆったりと心豊かに生活をおくることができる安心社会を実現します。

### 施策の方向性

#### 安心して生活や活動ができる、ゆとりと希望あふれる社会を実現します

- 人口減少社会に対応した持続可能な福祉・医療制度のもと、安心した生活と社会活動ができる都市を目指します。
- 介護が必要な人も障害がある人も、自らの選択により地域で安心して自立した暮らしをおくることができる社会を実現します。
- 防犯や防災など、安心を支える充実した機能をもつ都市を実現します。
- バリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりなど、誰にでもやさしい都市環境を実現します。

#### 誰もが平等に能力を発揮できる機会がある社会を実現します

- 障害の有無や国籍、年齢や性別にかかわらず、意欲に応え、能力が発揮できる機会がある社会を実現します。
- 高齢者や女性の意欲や能力がいかに発揮され、活躍できるまちを実現します。

# 都市像の方向性 6

## 多様な地域の担い手が活発に活動し、互いに連携しながら発展する都市

<都市像説明>

要旨：市民や団体・企業などの地域の担い手が効果的に連携することで、特色ある魅力的な地域をつくり、都市全体の活力を高めます。また、東京を中心とした首都圏や、アジアにおける横浜の役割、位置づけを活かした魅力あるまちづくりをすすめます。

### 施策の方向性

#### 多様な担い手が相互に連携しながら活動できる地域社会を実現します

- 多様で豊富な人材を活かし、横浜らしい市民活動を展開します。
- 情報や人的資源の充実とともに、多様な組織や個人が適切に役割分担をすることで、活発な市民活動を展開します。
- 企業と地域の連携を進め、特色ある地域づくりをすすめます。
- 地縁型ネットワークとテーマ型ネットワークが融合し、活力ある地域づくりをすすめます。

#### 世代間・異文化交流が活発な地域社会を実現します

- 世代間でお互いに助け合い、連携することにより、安心した地域生活を実現していく社会を目指します。
- 世代間のバランスがとれた地域コミュニティが実現できるまちづくりをすすめます。
- 地域の大人と子どもや外国人が交流できる、地域のネットワークづくりをすすめます。
- 外国人にとって暮らしやすい環境が整った国際都市を目指します。

#### 地域の特徴を活かした、魅力あるまちづくりをすすめます

- 横浜ならではの文化や歴史を活かし、地域の魅力づくりをすすめます。
- 地域の交通環境や地理的条件などを活かし、それぞれが特徴に応じた魅力ある生活・活動環境を実現できる地域づくりをすすめます。

# 第1部会(少子高齢化関連)における意見の中間とりまとめ

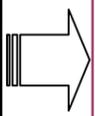
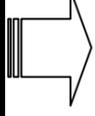
重点項目	意見概要
<p>魅力ある生活環境 (青年期～家族形成期)</p>	<p>市内に「長く住む」とメリットがあるシステムを作る 人口が集まってくるような政策を戦略的に行っていくべき 若い世代が魅力を感じられる生活環境を作り出していくべき 若い世帯の住宅購入意識や定住指向などを把握することも、魅力ある都市づくりに必要 若い世帯が魅力を感じるものが、教育内容であったり子育て支援、就労環境などであるならば、それを売りにして定住化を図ることが横浜らしさにつながれば良い 観光資源などへの投資だけでなく、住んでいる市民にもっとアピールできる施策を進め、「住み続ける」ことへの満足度を高めるべき 「定住したくなる都市」が横浜らしさになる だれが転入してきてもウエルカムな開かれた社会が横浜の良さ 「希望の持てる社会」「横浜に住むメリット」「横浜で暮らす魅力」をそれぞれのライフステージごとに考えていく</p>
<p>子育て支援 (子ども・家族形成期)</p>	<p>子育てに関する負担を社会全体で支えていくしくみが必要 様々な世代が子育てに係わり、連帯してその負担を担える社会の実現 親も子どもも将来に対する希望が持てる社会を実現することが必要 子どもを産むことに幸せを感じ、また、子ども自身が希望を持てるような社会を実現すべき 子育て世帯の収入確保の視点からも考えていくべき お金の問題は無視できない。子育て支援施策の充実が欠かせない 子育てに関する費用は、ほとんどが教育費である 「経済(競争)優先」では、子育ては面倒、デメリットになってしまう 子どもを産む選択がしにくい環境として、経済的なものと、自分の時間がなくなるという2つの理由がある 社会のしくみが、子育てと仕事を両立させられる環境になっていない 男性と女性が(一緒に)「いる」ことや結婚することに魅力や価値観を見いだせない社会になっている</p>
<p>特色ある教育 (学齢期～高齢者)</p>	<p>これからは個性や多様性が重要となってくる 教育を、学校教育だけでなく生涯にわたって考えていくことが必要 人が人を育てることにかかわるとい社会になっていない 地域コミュニティを支える人材の育成が重要 自分が受けた教育を自分の子どもにも受けさせたいと感じられる教育をどう提供していくかが重要 学校の意思決定に市民が参画したり、チェック機構を有したりすることが教育の充実にもつながり、市民参画の視点からも重要 経済的負担の少ない良質な教育の提供のため、公教育の再生が必要 学校教育を離れても再挑戦が可能な社会を実現すべき 国際性に富んだ地域人材を活かし、特色ある教育を展開すべき</p>
<p>働き方 (青年期～高齢者)</p>	<p>経済的な問題だけでなく会社など労働環境の整備も必要 横浜を(人口的に)ひとつの「国」ととらえ、行政や市民の力で「横浜らしい(市民活力を導入した)労働行政」を展開し、「国を超えることを市と民が行っている」ことを「横浜らしさ」にしていけば良い ニートやフリーター問題を解決しないかぎり、今の社会そのものが維持できない。「働く」ことの位置づけをしなおす必要がある ニート、フリーターなど、若者の就労問題が非常に重要 今後も、努力や競争によりお金を稼ぐことは変わらない。たてまえの「ゆとり」と現実のギャップが、ニートなどの問題にも絡んでいる 就職する前に地域との交流を持ち、社会的な経験とやりがいを感じる機会があれば、ニート問題の解決の糸口になる 仕事のおもしろさが子どもに伝わっていない。メッセージ(魅力)を発することができる大人が必要 ひたすら働く人と家庭を支える人など、分業により効率を追求してきた市場社会では人間の生活が分断されている。そういうあり方を変えていくことが少子高齢化社会や子育てを支える地域社会づくりにもつながる 女性が働きやすい環境をどのように実現していくかが大切 競争社会であることを隠す必要はないが、いろいろな競争の形があって良い。いい大学やお金などの指標だけではなく競争の複線化が必要 再挑戦が可能な複線化した社会の構築が重要 再挑戦のしくみやセーフティネットの構築などとともに、個性や多様性を踏まえたくえでの競争が活力ある社会には必要 「何でも挑戦できる都市・横浜」 在宅も含め多様な働き方が存在する横浜を実現し、横浜らしさにできないか 「働く場所が豊富」「(就労・起業等に)必要な情報が多く手に入る」「起業のしやすい」都市を「横浜らしさ」にできないか 65歳定年制以上のものも検討する必要がある 少子高齢化対策は経済成長を確保することにもつながっている</p>
<p>社会全体のしくみ (制度・ツール、その他)</p>	<p>外国人と国際的日本人がたくさんいる横浜を実現 外国人が住みやすいまちづくり 個性や多様性が尊重され、だれもが希望を持てる社会を実現する 「個人の能力がいかに発揮される都市」の実現が横浜らしさの発揮につながる 夫婦共に夜遅くまで仕事し、子どもも夜中まで塾に通うような家庭環境を変えないと、希望あふれる都市にはならない 男女ともに、適度に働き適度に家庭で、地域の活動もできる、そのようなバランスの良い社会が必要 女性の能力をもっと活かし、「女性が元気なまち横浜」をキャッチフレーズにできないか 地域活動における男性の参加もポイントになる 経済的な「勝ち組」「負け組」の概念は今後どうなっていくか。別の概念への転換が必要ではないか 世代間の協力も必要 若者の市民参画を進めるのであれば、選挙権の拡大など社会に若者たちの意見を反映できるしくみも必要</p>

都市像の方向性1

都市像の方向性2

都市像の方向性3

都市像の方向性4

	<p>計画の検討から検証までを市民と行政などが協働して行い、市民の力が生かせる自治体が生き残っていく          子育てや介護をしている人やサポートしている人を市税で優遇するなど、誰もが希望を持てる社会の実現の視点も大切          寄付金の控除など、税制の面でも「横浜らしさ」を打ち出せないか          セーフティーネットなど行政がしっかりと担うべき部分もある          社会保障制度や税制度、医療制度のあり方も大きく係わってくる          充実した障害者施策の維持の視点も大切          将来の生活保護制度をどうするかが課題</p>	 <div data-bbox="2665 79 2822 386" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>都市像の 方向性5</b> </div>
<p style="text-align: center;">特色ある地域 (地域、制度・ツール)</p>	<p>横浜には下町やニュータウンなど様々な地域がある。それぞれの地域が持っている良さを活かしていく          交通アクセスの良さなどの横浜の特徴をアピールし企業誘致を進めるとともに、企業の社会貢献活動や地域との連携を進めることで、特色ある地域づくりができる          地域コミュニティーの形成や市民参画を推進するためには、わかりやすい情報提供が重要          地域コミュニティー再生の議論においては、合意形成や意思決定、政策決定など市民参画が目的とするものを明確にしておく必要がある          世代間交流を進めることが、それぞれがいきいきと生活し、社会の活力を高める          旧来型の地域ネットワークとテーマ型のネットワークの融合が、これからの地域の活性化につながってくる          NPOなども含めた多様で豊富な人材をうまく活用し、他の地域でできないことをやれるということが横浜らしさ          地縁や血縁を超えた、横浜らしい生活文化の継承が実現できると良い          地域の大人と子どもがお互い顔の見える環境をどう取り戻すかが重要          分権と区行政への市民参画が進み、20年後には日本で一番市民自治が進んだまち横浜になる          リベラルな雰囲気や緑の多さは横浜の特徴          「文化性」「新しいもの好き」「どちらかと言えば個人主義的」などが横浜らしさ          横浜らしさを考えるうえでは、東京に近い「東京との関係」を考えることも大切</p>	 <div data-bbox="2665 499 2822 596" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>都市像の 方向性6</b> </div>
<p style="text-align: center;">全体審議 (第3回部会)</p>	<p>総花的ではなく、(財源的に全部は難しいので、)横浜市として選択と集中をする部分がある程度明確にした内容のほうがよいのではないか。          若者に魅力あるまちづくりや、女性が元気なまちを横浜のアピールポイントとして掲げるのも良い方法          増加する高齢者や医療、保健についてももっと議論が必要          高齢者の中でも、様々な価値観や格差が生じ、いろいろな課題が偏在するようになる。そのようなストレスをためないしくみをうまく作ることが施策の方向性として必要          高齢者も、世代間交流やNPOなどと一緒に地域で暮らしていけるまちが理想ではないか。          外国人も含め、誰がいつ来てもウエルカムなまちの視点も盛り込んだらどうか。          子どもへの医療が充実した都市として横浜をアピールできると良い。          国際性とは、外国語が話せるだけでなく、国際社会で活躍できる人材を育てることと、日本人としてのアイデンティティーをしっかりと持ち、日本人として応対できることも大切          英語教育は、いろいろな国の人々が暮らす横浜においてはコミュニケーションツールとしても大切である。都市の魅力づくりにもなる。          国際機関など、活躍の場が豊富にあり、それをアピールすることが国際都市のイメージのひとつになるのではないか。          様々な産業の育成、多様な労働形態の実現が市民の労働環境を自前で整えるうえでも大切である。          子育て世代の働く環境が厳しい。少子化対策という言い方ではなく家族政策への転換が必要。みんなが働き、みんなが家に早く帰れる環境整備が必要          将来の道を切り替えていくことができる流動性のある社会のイメージも必要          障害者が地域で安心して自立した暮らしを送るための施策の方向も重要である。          バリアフリーやユニバーサルデザインなど、高齢者だけに限らない都市の魅力をどこかに盛り込めないか。          様々な世代がバランスよく住めるまちであることが重要。世代間の軋轢が生じるような社会システムを変化させる必要がある。          高齢者や若い世帯が地域的に分断されているまちでは世代間の連携は難しい。まちづくりの視点も重要          定住外国人に対する日本語教育やわかりやすいサインなど、外国人が暮らしやすいまちをつくるのが国際都市としては必要          国際性という点では、在住外国人との共生が重要である。異文化交流の仕組みが必要</p>	 <div data-bbox="2686 814 2745 1241" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; writing-mode: vertical-rl;"> <b>第1部会「中間とりまとめ」</b> </div>

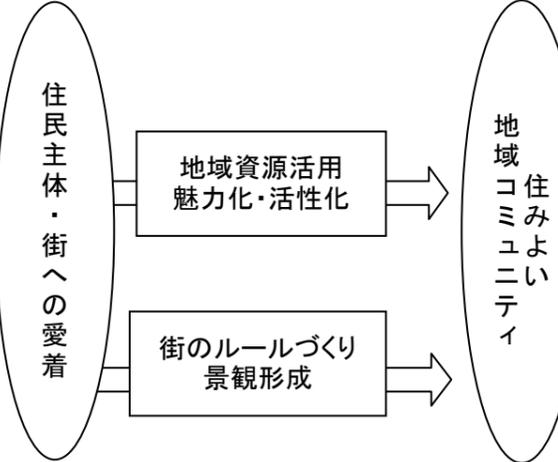
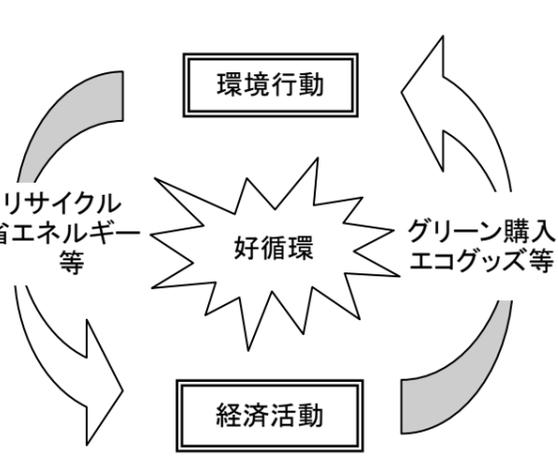
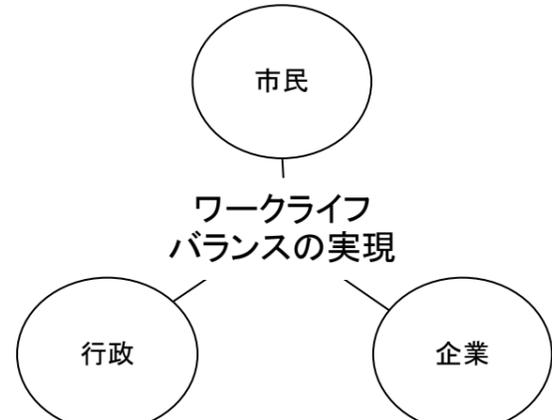
# 第2部会

(グローバル化関連)

## 中間とりまとめ

## 第2部会(グローバル化関連)中間とりまとめ ～都市像の方向性など～

都市像のイメージ・キーワード	概要図	具体的アイデア<例示>
<p>(1) 国際人・人材育成)</p> <p><b>「横浜人＝国際人」が暮らし、国際人を育み、世界の人から選ばれる都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバルな視点を持った人材の集積</li> <li>○グローバルに活動する人材の育成</li> <li>○地球市民として環境、人権、貧困などに取組む、または意識を持った人を育てる</li> <li>○オープンな、ボランタリーな心(意識)の国際性</li> <li>○人のつながりから都市のつながりへの展開</li> <li>○国籍に関わらず暮らしやすい生活環境の整備</li> <li>○世界の人とのコミュニケーション能力の向上</li> <li>○国や地域に誇りを持つ社会を築くため、歴史や文化の理解のための教育推進</li> <li>○横浜の技術力や市民力を活かした国際貢献の推進</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人の地域活動への参加</li> <li>○外国人の町内会での紹介</li> <li>○国際的な船員教育機関</li> <li>○都市間FTA</li> <li>○子どもの時期に外国人とコミュニケーションが図れる場づくり</li> <li>○「こんにちは」「ありがとう」程度の様々なアジア言語を子どもたちに教育</li> <li>○横浜アーバンODA(アジア都市への技術援助)</li> </ul>
<p>(2) 横浜アピール)</p> <p><b>国際港都横浜の持つ独自の多彩な個性を、世界にアピール(発信)し、活性化する都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界標準化が進む中で、地域固有性の尊重</li> <li>○「横浜らしさ」や横浜の強みの明確化、東京にない個性、ミニ東京ではない独自性</li> <li>○世界に誇れる魅力・活力・創造力の発見と充実</li> <li>○歴史や異国情緒のある街並みと先進的な都市空間の活用</li> <li>○文化芸術活動を支える都市環境やコンテンツ産業の発信など創造的な都市づくり</li> <li>○空港や港の良い立地条件を活かし、空港、港、道路、鉄道が一体的に機能する都市構造の整備</li> <li>○横浜港を親しみのある港としての機能と、競争力がありアジアや世界に貢献する港湾機能の両方を高めていく</li> <li>○空の港と海の港を使ってアジアとの連携を強化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○中小企業等のものづくり技術力をバックアップ</li> <li>○IT・バイオ・ナノなど成長産業の集積</li> <li>○農作物の直売所のネットワーク化やアンテナショップの展開</li> <li>○ライトフェスティバル</li> <li>○横浜スタンダード型企業の認定(社会貢献や横浜らしさを評価)</li> </ul>
<p>(3) 暮らしやすい都市構造)</p> <p><b>職と住と楽が近接し、利便性と快適性のある暮らしやすく働きやすい都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○職 → 女性や高齢者、ニートなども働きやすい</li> <li>○住 → ニーズに合った多様な住みよい住宅地</li> <li>○楽 → 可処分時間の増加＝遊び+学び+憩いなど多様な機会の提供</li> <li>○近接→移動しやすい公共交通機関を活かし、主要駅を中心としたコンパクトな土地利用、地域づくり 一方で、不便であっても、豊かな自然の中での暮らしを選択できる都市づくり</li> <li>○暮らしやすい住宅地だけではなく、働きやすい就業地の環境づくり</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○居住の場、就業の場、学び遊ぶ場などを身近に配置</li> <li>○人が集まれて、自然にコミュニケーションできる空間の設置</li> </ul>

都市像のイメージ・キーワード	概要図	具体的アイデア<例示>
<p>(4) 地域まちづくり)</p> <p><b>住環境や歴史的資源など多様な地域の特性を反映しながら、住民自らのまちづくりが活発に展開される都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の資源(歴史・文化・水と緑・景観など)、魅力の発見</li> <li>○住民主体の手作りの環境づくりやイベント</li> <li>○地域の課題に対応した市民参加のまちづくり</li> <li>○地域コミュニティによるエリアマネジメント、まちのルールづくり</li> <li>○それぞれの地域で魅力的な活動(仕事、文化、消費など)や暮らしができるまちづくり</li> <li>○18区役所を中心とした協働のまちづくり</li> <li>○農地を農業機能だけでなく、環境への寄与など様々な機能を活用</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な住宅地や水・緑など豊かな自然環境、歴史的資源など、それぞれの地域の特色を活かした景観を住民の手で守り、つくる。</li> <li>○農産物やそれを活かしたお菓子、魚介類など、横浜の名産物をつくる。</li> </ul>
<p>(5) 環境行動)</p> <p><b>地域から地球に広がる環境問題に対し、市民や企業が自ら環境行動を考え推進する持続可能な都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境と経済のバランス</li> <li>○エコロジーとエコノミーの調和、環境共生の視点</li> <li>○サステナブル(持続可能)な都市づくり</li> <li>○G30、省エネルギー、クールビズなど環境に優しいライフスタイルへの転換</li> <li>○新エネルギーの導入と環境教育</li> <li>○豊かな自然環境の保全・創造</li> <li>○あらゆる環境に関する情報の発信や人が集う「環境のみなど」</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○屋上緑化</li> <li>○ホテルなどにおけるサービスのグリーン化</li> <li>○拠点的な緑地の保全</li> <li>○学校での風力発電</li> </ul>
<p>(6) 実現方策)</p> <p><b>市民が参加意識を持ち、地域社会への貢献を尊重し、改革のために考え行動する都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークライフバランス(市民、企業、行政の新たな役割分担)の実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>市民→より高次元の欲求(社会との関わり・自己実現等)を満たす社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会活性化やそのための参加の重要性を認識/市を取り巻く状況などの理解/個人の成長と他人の成長支援/地域社会に参加している人の尊重</li> </ul> </li> <li>企業→CSR(企業の社会的責任)視点での地域社会への積極参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会とのつながり、社会貢献/新しい働き方の提案、雇用機会の提供/地域の人材育成(熟練技術、事業計画策定、リーダー人材等)/環境の維持・改善への投資</li> </ul> </li> <li>行政→ビジョン達成への求心力とリーダーシップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・健全な危機感の醸成/変革の必要性・方向性の提示/ビジョン、目標の共有による施策の整合性/分かりやすく伝わりやすい広報活動/地域社会への貢献・個人の成長のための仕組みづくり</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民、民間企業のOBや社員、教育機関などのボランティアを組織し、人材育成と相互学習のためのコミュニティを構築</li> </ul>

## 第2部会(グローバル化関連)における意見の中間とりまとめ

参考資料

◎第1～3回部会で出された意見 ○個別に委員からいただいた意見 ・市民の意見(7/24横浜の未来を考えるシンポジウム)

枠組	論点	主な意見
	<b>考え方</b> (長期ビジョンの構成等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎市民が主語のビジョンにするため、あるべき状態だけではなく、市民がどのように行動するべきかのメッセージが入っていたほうがいいのではないかと。</li> <li>◎長期ビジョンは、最終的には構想としてまとめることになるが、様々な細かい内容をベースに持った上で構想というものが無いといけないのであって、プログラムやこうありたいという願いなどがベースにしっかりあるということが、構想を支えることになる。</li> <li>○各都市共通の普遍的な都市像をベースとしつつ、横浜ならではの都市像をより強調するような立体感のある構成にするとともに、普遍的な都市像についても、できるだけ横浜を具体的にイメージできる表現を盛り込むべきである。</li> <li>◎5つの都市像のイメージが世界から横浜の周辺も含めた都市、横浜の都市の中の構造、地域、一人ひとりの市民、と大きいものから小さいものに整理されているが、一人ひとりの行動がまた地球に戻っていく、という循環の仕組みを表現したい。</li> <li>◎長期ビジョンに記載するレベルとしては、具体的な数値を入れたり、「協働のまちづくり」という場合に、市民の役割や役所の働きなど、具体的な方向性を記載すべきである。</li> </ul>
<b>国際都市</b>	<b>外国人市民との交流</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地域や市民生活レベルの国際化や多文化交流が必要。</li> <li>◎ローカルがグローバル化していく、いわゆるグローバルを考えるべき。</li> <li>◎外国人市民のまちづくりへの参加が必要。</li> <li>○外国人が公務員や消防団員など地域的な集団に参加できるようになるといいのではないかと。</li> <li>○外国人市民や外資系企業については、人と人のつながりが重要である。外国人に優しい街であるという印象を持ってもらうことが必要。</li> <li>○外国人市民の暮らしやすい生活環境は新たにつくるのではなく、もともとあるまちの雰囲気を活かしながら、外国人も日本人も暮らしやすい生活環境を整えるべきである。</li> <li>◎真の国際化とは、地球市民の意識を高めていくことであり、単に他の国の人と交流をするということだけではなく、環境、人権、貧困などにきちんと取り組んでいく、またはそのような意識を持った人が育っていくまち、横浜と考える必要がある。</li> <li>◎外国人から選ばれるまちになることにより、日本人にとっても魅力的なまちになる。</li> <li>◎外国人の社会保障や医療、教育などの制度や住宅などを整えていく必要がある。</li> <li>◎オーストラリアのゴールドコーストは小さな都市だが、観光が魅力的で観光客が多く、また、学びに来ているひとや働きに来ている人もいて、世界中から多くの人々が来ている。外国人から選ばれる都市として参考になるのではないかと。</li> <li>◎いきなり世界ではなく、まずアジアの中での都市間交流が必要であり、アジアの中での魅力ある教育、文化、経済の中核都市になることが必要。</li> <li>◎アジアは現在自然や環境保全などの問題と戦っており、横浜の農業者がアジアの農業者と交流するなど、アジアとの都市間交流に力点を置くべきではないかと。</li> <li>◎国際交流は実際に行うのは大変難しい。経済や教育レベルが違う中で、お互いを理解することが重要であり、コミュニケーションをとれる仕組みや場所が重要である。具体的には、町内会で近くに住む外国人を紹介したり、祭りに参加してもらったりしてもらうことが必要。</li> <li>◎サンフランシスコでは、選挙の時に送る投票案内書は4分の1が英語で、そのほかはベトナム語やスペイン語などである。また、デトロイトではイスラム教徒が多く入ってきているが、イスラム教徒は豚を食べないため、別メニューにしなければならぬなど、外国人を受け入れるためにはさまざまなコストがかかるという覚悟も必要である。</li> <li>◎保育園や幼稚園の時期に、外国人と実際にコミュニケーションが取れる場を作ることが必要。</li> </ul>
	<b>外国人労働者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人研究者や技術者の積極的受け入れによる企業の国際展開の推進が必要であり、学校や病院などの生活環境を整え、横浜は住みやすい、研究しやすいまちといわれることが必要。</li> <li>○外国人労働者の受け入れは国策であると思うが、特区的に場所や職種を限定してやってみるというのも考えられるのではないかと。</li> <li>○外国人労働者の受け入れについては、様々な課題を想定し十分に検討する必要がある。</li> <li>○単に働きに来るだけではなく、日本や横浜のことを理解しようとする国際人を招く必要がある。</li> </ul>
	<b>教育、人材育成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎多文化共生を考える上で、教育の問題は避けて通れない。</li> <li>◎言葉だけではなくコミュニケーション能力を持ったグローバルな人材の育成が必要。</li> <li>○人間の中身が大事である。教育に熱心な街、横浜に住むと熱心に教育してくれるといわれるようになると思う。</li> <li>○外国人の教育環境を整える中で、日本人の教育を見直すきっかけにもなるのではないかと。</li> <li>◎グローバル都市となるために子どものころから英語を学ぶことが必要。英語しか使わないフォーリンビレッジをつくったらいいいのではないかと。</li> <li>◎国際化をしていく上で英語も必要だが、むしろ多言語を考えるべきである。子どもたちが、様々な言語をリズムや音楽のように体で感じるができる環境をつくっていくことが必要。</li> <li>◎多言語については、中国語、韓国語、ロシア語などまず隣の国の言葉から勉強する必要がある。</li> <li>○国や地域に誇りを持つ社会を築くことが必要であり、横浜の歴史や文化の教育が重要。</li> <li>・グローバル化によって船員が大きく減少しているが、能力のある外国人を活用するためにも、船員の60%以上を占めている部員を教育する、国際的な船員教育機関をつくったらいいいのではないかと。</li> <li>◎今後東アジアと近い関係になっていくことから、アジア言語の教育が必要である。</li> <li>◎横浜の子供たちが「こんにちわ」、「ありがとう」などを、近隣のアジアの言葉で話せるようになったらいいいのではないかと。</li> </ul>
	<b>国際貢献</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎横浜らしい中小企業の技術力や市民の国際性、開放性を活かしながら、競争に勝つだけではなく、アジア地域の環境改善など、海外の都市、地域の人々に国際貢献していくことが必要。</li> <li>◎自分の国、郷土に対する考え方、横浜人としてどう横浜を考えていくかなどがあって、初めて国際化があるのではないかと。</li> <li>◎都市間競争が激化していく中で、協力し合う都市も必要であり、特区や規制緩和などを活用して、上海やバンクーバーなどと都市間FTAという形で、経済や教育などあらゆる部分でより深い結びつきをつくっていったらいいいのではないかと。</li> <li>◎横浜アーバンODAという形で、アジアの都市への環境問題含めた技術援助など、横浜の技術力を活かした国際貢献が重要である。</li> </ul>

都市像の方向性

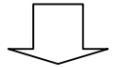
真の国際化を目指すという観点から、国際都市における人と人のつながりや国際人としての人材育成などに着目した将来像など



枠組	論点	主な意見
国際都市	観光振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎日帰り客を取り込みつつ、泊まってみたいくなるまちづくりが今後重要になる。</li> <li>◎横浜に来たら横浜の美味しい野菜が食べられる、また、ホテルなどでもバイキングで誰が作ったものかを表記するなど、農業を活かした観光も考えられるのではないかな。</li> <li>◎直売所をネットワーク化したり、様々なところにアンテナショップをつくることも検討すべき。</li> <li>◎外国人は昔の日本を見たいと考えている。古風な日本の景観・風情を残した都市づくりが必要。</li> <li>◎観光客を集客しづらい時期に、定期的、継続的に市内を回遊するようなイベントを行うことが効果的ではないかな。</li> </ul>
	情報化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)を活かしたまちづくりが重要になる。</li> <li>◎ウェブサイトは都市の顔であり、横浜もITをもっと活用してマーケティングしていく必要がある。</li> <li>◎新しいことを受け入れる横浜の特徴を活かし、携帯電話が使用可能な地下鉄のビジネス車両など、固定観念に縛られない発想を取り入れるべきである。</li> </ul>
	文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎単に産業の活性化や文化芸術ということではなく、文化や芸術をベースにしながらか新しい産業を様々なに生み出すような「創造性」が必要である。</li> <li>◎どこの都市も同じような顔づくりを行っているなかで、横浜の文化や横浜ならではのものを残しながら、国際的な都市づくりをしていくことが重要。</li> <li>◎リヨンのライトフェスティバルのように、街中がライトアップされ、ライトによってビルの壁面にアートを描くようなフェスティバルをやれば、文化芸術の都市として打ち出せるし、観光客を集めることができるのではないかな。フランス映画祭と一緒にやるとさらに効果的ではないかな。</li> <li>◎コンテンツ産業が横浜から発信できるようになるといいと思う。</li> <li>◎創造性やコンテンツ産業を積極的に表現すべき。</li> </ul>
都市構造	ものづくり技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎横浜が昔から力を入れてきた「ものづくり」の産業が大事である。</li> <li>◎生産拠点を海外に移す意味が問われているなかで、技術力やマーケティングに力をいれて製造業を残すことにより、市民の雇用の創出にもつながる。</li> <li>◎技術の伝承はすぐにはできないので、今、横浜に残っている中小、零細企業の技術力が国際的な競争の中で生き残っていくためにバックアップしていくことが必要。</li> </ul>
	産業育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎経済の競争力は企業に任せ、行政は再チャレンジできる仕組みや安定した暮らしを支えることにより、結果としてグローバル都市になるのではないかな。</li> <li>・横浜は国際的産業を大事にしてきたので、それを伸ばせばいいのではないかな。</li> <li>・市民や市が出資して横浜に政策投資銀行的な銀行をつくり、地場企業の育成を図ることが必要。</li> <li>◎IT・バイオ・ナノなど、これから伸びる産業の集積が必要であり、そのために必要な都市構造を考えるべき。</li> <li>◎東京に近いこと、教育や所得水準が高いことなど、横浜の特徴を活かしていくことが必要。</li> <li>◎横浜市内や周辺地域を含めた域内経済を形成し、地産地消の農業や商店街など顔の見える経済を活性化することにより、グローバル化していく中でも安心感のある生活ができるのではないかな。</li> <li>◎横浜の企業が世界の中で先進的なレベルになるために、環境保護や女性の働きやすさ、障害者、ニートへの対応など、一定の基準に適合する会社を横浜スタンダード型の企業として認定し、メリットを与える仕組みをつくったらいいいのではないかな。</li> </ul>
	空港・港湾	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎羽田空港の再国際化を図り、これを活用した横浜独自の産業展開を図るべき。</li> <li>◎横浜と同じ港湾都市である上海、仁川(インチョン)などと連携してアジアのハブを担うといいのではないかな。</li> <li>◎空港、港、道路、鉄道を一体的に考えた都市づくりが必要。</li> <li>◎「みなと」は横浜経済や横浜そのものの屋台骨であり、都市基盤を含めて港湾施設の高度化を考えていかなければならない。</li> <li>◎横浜の将来を考えると、「みなと」をどのように活かしていくか</li> <li>◎横浜で生産されたものは、横浜港を通して他都市やアジアへ出していくなどにより、横浜港を活性化させる必要がある。</li> <li>◎親しみのある港であると同時に競争力のある港であることにより、アジアや世界に貢献するという機能を高めていく必要がある。</li> <li>◎港は、経済的、地理的に横浜の動かない特徴である。</li> <li>◎港には、港湾機能とインナーハーバーなど観光などに関する機能があるが、横浜のビジョンを考える上では港は欠かせない。</li> <li>◎東京港との関係で、競い合ったら両方ともだめになる。</li> <li>◎海の港と空の港の両方の港を使ってアジアとの関係を強めていく必要がある。</li> <li>◎スーパー中枢港湾については、横浜がイニシアチブをとって進めていくべきである。</li> </ul>
	東京との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎現状のままでは東京のベットタウン化が進んでいく恐れがあるため、東京圏の中の横浜の特徴や個性を活かすべき。</li> <li>◎都市構造は首都圏全体で見ることがあり、横浜発で首都圏全体の絵を描く必要があるのではないかな。</li> <li>◎リヨンでは何か計画するときは周りの都市も協力するなど、周辺都市と連携したグレーターリオンを形成しており、横浜も近隣都市との連携体制をつくるべきではないかな。</li> </ul>
	職住近接	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎横浜に住んで働ければ女性や高齢者も働きやすい環境になる。</li> <li>◎今後退職世代になる団塊の世代の人たちの活用が重要であり、マッチングの仕組みなどを考える必要があるのではないかな。</li> <li>◎職住近接で、女性や高齢者だけでなく、ニートやフリーターも働きやすい都市構造にしていく必要がある。</li> </ul>
都心や副都心の機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎居住の場、就業の場、学び遊ぶ場などが身近にバランスよく存在するコンパクトな都市づくりが重要である。</li> <li>◎業務核都市的な多心型都市構造ではなく、生活に密着した心をつくっていく必要がある。</li> <li>◎生活の質を向上させるために都市空間の質を高めることが必要であり、都市の中に、バランスよく人々が集まれて、自然にコミュニケーションできる空間をつくる必要がある。</li> </ul>	
交通ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎高齢者が外出しやすく、女性が身近で働きやすい環境づくりなどのため、鉄道、バスなどの交通機関を市民の足として、より使いやすくすることが重要。</li> </ul>	

都市像の方向性

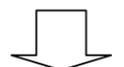
国際都市としての  
魅力や活力を高める  
観点から、横浜らし  
さ・個性に着目した  
将来像など



2 横浜アピール

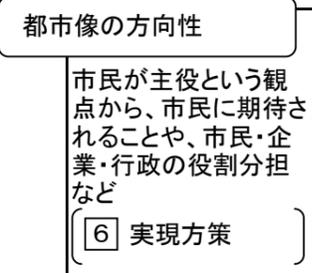
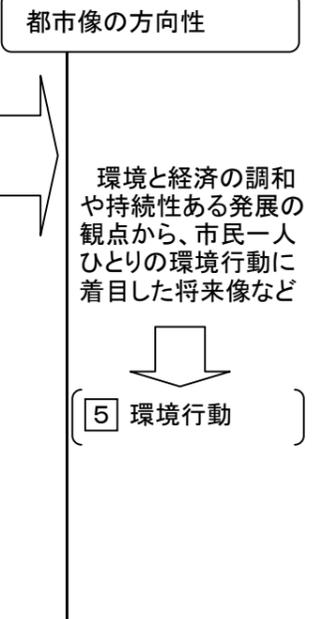
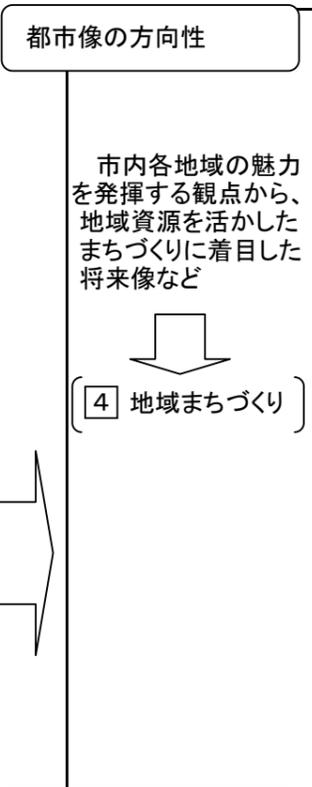
都市像の方向性

望ましい都市構造  
の観点から、暮らし  
やすさ、働きやすさ、  
企業活動しやすさに  
着目した将来  
像など



3 暮らしやすい  
都市構造

枠組	論点	主な意見
都市構造	都市農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎野菜類の中には横浜市内では賄えないものがあると思うので、どのように食べられるまちづくりをしていくのか考える必要がある。</li> <li>◎少子高齢化で労働力が不足していく一方で、リタイア世代などで土に触れたいという人が多くいるので、市民を取り込んだ農業にしていく必要がある。</li> <li>◎農業が産業的に発展し、雇用を生み出すようになると思う。</li> <li>○農家が農家として経営が成り立つようにする必要がある。</li> <li>◎観光都市横浜において、農産物をおみやげにしてもらったり、中央市場の活用なども考えていく必要がある。</li> <li>◎国際都市横浜の中で癒し効果のある農業は市民共有の財産であるという意識の醸成が必要。</li> <li>◎農産物やそれを活かしたお菓子、魚介類など横浜の名物を作る必要がある。</li> </ul>
	農地保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都市と農業を分けて考えるのではなく、都市の中での新しい農業を考えられないだろうか。</li> <li>◎横浜に大きな農地があり、農業を展開しているということを市民に理解してもらうことが重要。</li> <li>◎市街化区域の農地は、緑といった環境面だけでなく、災害発生時の緩衝帯としても意味があり、防災協力農地なども都市農業を理解してもらうためのひとつの方策である。</li> <li>◎現在神奈川県内で最大の農地がある横浜において、20年後にどのくらいの農地を残すか、という方向性を明確にすべきである。</li> <li>◎農地を従来の農業機能だけでなく、いろいろな機能を活用して環境などに寄与できるような仕組みを組み立てていく必要がある。</li> <li>◎農地には癒し効果がある。</li> <li>◎大都市の中に緑や農地があるというのはすばらしいことであり、税制などを含め保全対策にしっかり取り組んでいくことが必要。</li> </ul>
	住宅・住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎将来、横浜市でも過疎と過密の問題が生じ、立地条件の悪いところは廃墟となる部分が出てくると思われるので、今後の住宅政策のあり方を考える必要がある。</li> <li>◎横浜にはさまざまな顔があるが、住環境もひとつの顔であり、人が住んで憩い遊べるまちづくりという一面をどのように表現していくかを考える必要がある。</li> <li>◎横浜は20世紀の典型的な郊外型住宅地を形成し良質な住宅地を持っているが、それを次の世代にどのように引き継いでいくかというメッセージを出していくことが重要である。</li> <li>◎ニュータウンについては、一時期に同世代の人が入居するが、一時期に高齢化するという問題もあることを認識する必要がある。</li> </ul>
	景観形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な住宅地、斜面緑地、歴史的資産など、地域各々の特徴を活かした景観を住民の手で守り、つくっていくことが必要。</li> <li>・歴史的建築物など景観を活かした都市整備が必要。</li> <li>◎港と景観は横浜の宝であるということを共通認識にしていく必要がある。</li> </ul>
環境行動	身近な自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>○河川、海、緑地、農地など貴重な環境資源を活かしたまちづくりが必要。</li> <li>◎都市部で緑を残すためにはお金がかかるので、土地開発公社が持っている土地と交換するなど、知恵を絞る必要がある。</li> <li>○市内の大小様々な空を、次に使用するまでの間、地域の住民が農地や花畑として活用できるような仕組みづくりをしたらどうか。</li> <li>◎都心部の中にコミュニティガーデンを作ったらいいのではないか。</li> </ul>
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎希少種等、横浜に残されている豊かな自然環境の保全や再生が必要。</li> <li>◎公園や緑地を減らさないように道路整備をすすめる必要がある。</li> <li>◎横浜に残っている希少種は人が住んでいるすぐ近くの里山におり、手を差し伸べないといなくなってしまうので、行政が守るという姿勢を打ち出すことが必要。</li> <li>○緑の七大拠点は是が非でも守るという方向性を打ち出す必要がある。</li> </ul>
	省資源、循環型社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境に配慮したライフスタイルや企業活動への転換、インフラの整備、環境負荷を軽減する新たな技術開発の推進やリサイクルの推進など、循環型社会に向けた仕組みづくりが必要。</li> <li>・G30の実績を活かしながら、大都市型の環境対策のあるべき姿をビジョンに取り入れてほしい。</li> <li>◎私たちがつくるごみ自体を減らす、ライフスタイルを変えなくてはいけない。</li> <li>◎コンポストをたくわえておく土地がなくていけないので、コンポストからつながる都市農業とのサイクルといったシステムをつくるべきではないか。</li> <li>○市民が一律的な環境行動をするだけではなく、地域の特性に応じてどのような行動が必要かを自ら発案し、行動する必要がある。</li> <li>◎新エネルギーの導入と環境教育が重要であり、学校に風力発電を取り入れることなどにより、子供たちの環境意識を高め、子供たちが親に環境問題を教えるようになって効果的である。</li> <li>◎横浜があらゆる環境に関する情報の発信の場や人が集う場であったり、ネットワークする中で環境問題を解決していくなど、「環境のみなど」というキーワードがいいのではないか。</li> <li>◎学校給食の廃棄物の活用と地域への還元を考えることにより、学校と地域をつなげながら、食を通して地球環境につながっていくという循環をうまく表現できないか。</li> <li>◎日本丸を環境のシンボルとしたらいいのではないか。</li> </ul>
	地球温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ヒートアイランドなど地球温暖化が進んでいく恐れがあるため、大きな緑の配置が必要。</li> <li>◎地球温暖化対策として、マンションなどの屋上緑化を進める必要がある。</li> <li>○平均気温を何度下げるといような、明確な目標を設定して地球温暖化に取り組むべき。</li> </ul>
	環境と経済の調和	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境と経済がトレードオフの関係ではなく、環境に配慮するほど競争力や魅力が発揮できるような都市構造を考える必要がある。</li> <li>◎ホテルで歯ブラシやアメニティを使わなかった場合はその分を植林にまわすなど、サービスのグリーン化をすすめる、観光都市として、市民だけではなく、横浜を訪れる人にも協力してもらえるような仕組みづくりが必要。</li> <li>◎環境保護などに取り組むとコストがかかり入札などでは不利だが、しっかり取り組んでいる会社がきちんと仕事が取れるようにすべきである。</li> </ul>
実現に向けて	市民に求められること	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎市民の意識や行動を変えていくことが重要であり、そのために帰属意識や参画意識が必要。</li> <li>◎地域に貢献している人を評価する、尊重することが必要。</li> <li>◎市民が、地域社会を活性化することの重要性や必要性、自分たちがどれだけ横浜のことを理解しているかを認識することが必要。</li> <li>◎他人に貢献するためには個人が成長する必要があるため、お互いに学びあうコミュニティがあればいいと思う。</li> </ul>
	市民・企業・行政の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎市民が参加しやすいように行政はリーダーシップを発揮する必要がある。</li> <li>◎企業についても、社会貢献すれば何か返ってくるものがあると思うので、社会貢献が重要という意識を持ってもらいたい。</li> <li>◎役割分担をすべて見直さなければならない。</li> <li>◎CSRだけでなく、企業または業を行っている者たちが、どのように官の仕事を受け取れるかを考えなければならない。</li> </ul>



# 第3部会

(地域自治・公共の創造関連)

## 中間とりまとめ

## 第3部会 中間とりまとめ（都市像の方向性・施策の方向性）

### 都市像の方向性Ⅰ

#### すべての市民が地区経営に参画する都市

##### 施策の方向性

- 個々の市民、自治会・町内会（地縁的組織）、NPO等の団体（課題的組織）などが相互に理解し協力しながら、主体的に地区経営に参画する仕組みづくりを行う。
- 市民がサービスを受ける側の意識のみではなく、収入と支出の関係など、都市を経営する視点からサービス選択を行う。
- 市民が中心となって、地区に必要な公共サービスの量や、そのサービスの提供を担う主体などについて合意形成できる仕組みをつくる。
- 地区を経営するうえで必要な施策と、全市的な観点から必要となる施策が、相互にバランスがとれ、最も効果的な施策の選択が行われるようにする。

### 都市像の方向性Ⅱ

#### 市民が自発的に、様々な形で、社会的責任を果たせる都市

##### 施策の方向性

- 行政のみが公共サービスを担うのではなく、市民が、行政と役割分担や協働をしながら、自発的に社会的責任を果たすことで、人口が多いという横浜の社会的資源が最大限に活かされ、公共サービスが充実される。
- 介護サービスへの参加などの社会貢献活動を含め、「おたがいさま」の精神で、個々の市民が自らの力を発揮できる方法で、社会的責任を果たすことができる地域とする。
- サービスの受け手と提供者が完全に分離するのではなく、例えば元気な高齢者や障害者の方々が、サービスを提供する側として活躍できるような相互扶助の地域社会をつくる。

### 都市像の方向性Ⅲ

#### 柔軟性を持ち、新しい発想が生み出される地域コミュニティがある都市

##### 施策の方向性

- 「3日住めばはまっこ」という、転入者を柔軟に受け入れて来た横浜の歴史と特徴をさらに活かし、ずっと住み続けている人と新しく横浜へ来る人が、共に支え合いながら身近な問題を解決し、融合する中から新しい発想が生み出され、多様な価値感が認められる社会づくりを行う。
- 紋切り型な「区」とか「地域」とかを作るのではなく、「地縁型」や「テーマ型」など多様なコミュニティの単位が存在し、その地域の市民参画を進めやすいまちをつくる。
- 地域の企業に勤めている従業員や市職員、学校の教師、警察官などが、地域に住む方々と一緒に活動する「職住コミュニケーション」の活発なまちづくりを行う。

## 都市像の方向性Ⅳ

**「市民力」と「横浜型小さな政府」によって、多様で質の高いサービスが持続的に提供される都市**

### 施策の方向性

- 多様化する市民ニーズに対して、専門性を有する企業や、地域に精通した市民団体などが主体的に関わることによって、きめ細かな対応ができるまちとする。
- 公共サービスの担い手が拡大・育成されることで、行政は本来行うべき業務に集中するとともに、効率的なシステム(=「横浜型小さな政府」)を構築し、持続する。
- 行政が引き続き役割を担う部分についても、市民の参画が最大限に行われる仕組みとするとともに、透明性が高く、点検と改善を必ず実施する組織運営を行う。
- 地区における区役所の役割・あり方を再検証し、区役所を現在の行政枠に収まらない弾力的な制度としていく。

## 都市像の方向性Ⅴ

**横浜らしさを発揮した政策を自ら考え実行するとともに、他都市と連携しながら広域的な課題の解決に主体的に取り組む都市**

### 施策の方向性

- 横浜らしさを最大限に発揮する政策を打ち出すために、国や広域自治体に依存せず、自ら政策を立案し、実施し、責任を持つ自立した都市とする。
- 他都市とも連携・協力しながら広域的な課題に対する責任を果たすとともに、日本最大の都市として、周辺自治体や国の発展に対する社会的役割を担う。

### 第3部会(地域自治・公共の創造関連)における意見の中間とりまとめ

第1回～第3回部会で出された意見、及び個別に委員からいただいた意見をまとめたもの

都市像の方向性への反映

枠組	視点・目指すべき方向
公共の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行政と市民が一体となった第三者機関で公共サービスの割り振りを決定するシステムを作れないか。いわば「地域経営体」が20年後はうまく回っていてほしい。(人材育成・活用も含めて検討できる組織がよい。)</li> <li>○地域の公共的な仕事でありながらビジネスとなる「コミュニティビジネス」が将来はもっと活用されるのではないか。</li> <li>○基本的なケアのみでなく、サービスの受け手の選択肢を多様化することが必要。いかにもっと楽しく暮らせるか、プラスアルファを大切にすることが必要。(死ぬまで生きる喜びを感じられる地域にしたい。)</li> <li>○自治体にとって「市民」が株主でもあるはずだが、今は顧客意識が強い状況にある。「良いことだからやるべき」だけの発想では自治体は倒産してしまう。</li> <li>○公共の役割を考える場合でも、市役所の体制を並行して考えることが必要。(例えば、今後10年の退職者と不補充により削減する人数など。人口割りでいけば横浜市職員は少ない方だが、規模の経済も考慮すべき。)</li> <li>○「地区経営体」というコミュニティで意思決定して区、市と上がっていく「ボトムアップ」と、合理化されたシステムとされる「トップダウン」を、うまく融合させることが重要である。</li> <li>○公共サービスの量や提供方法などについて意思決定を行う、市民を中心に構成する第三者機関を作るべき。</li> </ul>
地域自治 行政と民の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>○稼働を伴うような実務のところはなるべく行政では行わず、企画をするところまでとどめるべき。</li> <li>○全ての部署において、業務の効率化を図っていく必要があるが、民間に任せても支障がない業務、民間が担った方がより低コストで高サービスとなるものもまだまだあるのではないか。</li> <li>○多種・多様化している市民ニーズに対しては、これまで行政が一律的・平均的にサービスを提供してきたが、今後はより専門性を有した企業や地域に精通した市民団体などに任せることによって、きめ細かな対応ができるのではないか。</li> <li>○市役所・区役所の職員は、民との役割分担を進め、真に必要なとされる業務に精力を傾けることが重要である。</li> <li>○20年後のビジョンを考える上でも「協働」は言葉として出てくるだろう。「行政」が無くなることはないので、「行政」と「市民」が一緒に公共を担っていくとは言わざるを得ない。</li> <li>○現在、大企業で行われている社会貢献活動が、20年後には中小規模の企業にも及んでいるのではないか。企業はNPOとの連携を模索しているので、行政と企業が直接結びついていなくても、NPOを間に入れることによって、企業-NPO-行政の連携を図ることができる。</li> <li>○民の力を活用して公共を担う場合には、行政はバックアップの役目を担う必要がある。(ボランティアへの対価も含め、継続した活動については、行政から金銭やプランナーを出すなど。また、サービスの受け手からとる[ボランティア税や寄附金]など、システムを作ってもよい。)</li> <li>○受益と負担の関係は、受益を制限される場合には、負担も目に見えて減らないと難しい。株主の発想(コストを減らせばもうけが出て配当増える)が必要。</li> <li>○介護クーポン券システムなど、社会貢献を税とする方法もあるのではないか。NPOの活動も受益者は市民であり、市民がそのために負担(寄付など)をするようなインセンティブを働かせられないか。(行政はその際、最低限のセーフティネットを担当する。)</li> <li>○「負担の方法を選択できる都市」という表現は、搾取されるイメージにとられるので、「様々な形で社会的責任を果たすことができる」などに改めるべき。</li> <li>○単に「高齢者=サービスの受け手」ということではなく、元気な高齢者や障害者が、自分達もサービスを提供する側になれるという相互扶助の社会づくりが必要である。</li> </ul>
住民参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアや自らの能力を活かしてほしいなどの希望を、「市民力情報」として登録し、活用できる仕組みづくりを盛り込みたい。</li> <li>○犯罪が増加している現状と、地域が警察と協力しながら防犯に努めていることを、地域市民が認識することが大事である。</li> <li>○市民の意向を反映させて、市民力を発揮するというには2つの側面がある。1つは、市民の意向、多様なニーズから出てくる提案をいかに政策に反映し公共サービスとして提供することができるか。もう一つは、市民が公共を担う場合には、様々な支援や提供などの仕組みが必要になるのではないかとこと。</li> <li>この2点を踏まえて20年後に向けて提示したい。</li> <li>○学校教育において、小学校くらいから地域の役割、市民参加について学ぶ必要があるのではないか。</li> <li>○生涯学習についても、豊かな心づくりで終わるのではなく、地域の活性化にどう寄与できるかといった視点が必要。</li> <li>○地域の活性化については、女性と高齢者をいかに活かすかが重要。</li> <li>○地域住民の新しい公共への参画の仕方などは、まずは行政講座的なものを組み入れながら地道に意識啓発をしていくべき。</li> <li>○学校教育において、「総合学習」の時間を活用して「横浜学」を子ども達に教えていくべき。ウェルカム横浜・ようこそ横浜へという「意識」と、住まう地域とグローバルに横浜全体を話せる「知識」の両面を教え、地域への愛情を育むべき。</li> <li>○退職後に地域に戻るために、定年の4～5年くらい前から、ウォーミングアップ講座を行ってはどうか。</li> <li>○NPO・市民が合意形成に参画するなら、責任も併せて持つ必要がある。(例えば、欧米では、コミュニティ施設も設置は行政が行うが、経営は民の力で行っている。)</li> <li>○「すべての市民が参画する」と都市像を描く場合には、自治会・町内会やNPO団体などの「組織」を前提とせず、まず第一には組織化されていない「個人」を参画の主体として掲げた方がよい。</li> </ul>

⇒都市像の方向性 I

⇒都市像の方向性 I

⇒都市像の方向性 II

⇒都市像の方向性 IV

⇒都市像の方向性 I

枠組		視点・目指すべき方向	
地域自治	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震や台風などのいざという時には、隣近所や地縁組織である自治会・町内会に頼らざるを得ないことも認識すべき。</li> <li>○「NPO」や「コミュニティビジネス」が、地域コミュニティにおける役割を担うに当たっては、地縁組織である自治会・町内会の理解と協力のもとで、共存するしきみを考えていく必要がある。</li> <li>○団塊の世代が高齢者になり、高齢者層が増加していくため、元気な人が軽い介護が必要な人を支える社会、相互扶助のシステムにならざるを得ない。</li> <li>○本来は市民が「お互いにやっていくもの」という啓発が必要ではないか。</li> <li>○元気に地域活動をするでもなく、要介護度が高いわけでもない、中間層の高齢者に対するケアを「市民力」を活用して行うべき。</li> <li>○新しい公共サービスの担い手として、地域の中でやれる人を募って「第3の組織」を設置すべき。(自治会[地縁的に伝達機能を果たす]、NPO[テーマ型コミュニティ]と並列しながら存在する。)この組織を定年退職した後に地域に帰りやすいシステムを作り、主役として活躍する場とする。</li> <li>○「お互い様の精神」で、やったことが還ってくるシステムづくりが必要。</li> <li>○コミュニティの単位を考える場合は、濃度・地域性が異なるため、紋切り型に「区」とか「地域」にこだわらずに、そこがやりやすいという形でよいのではないか。</li> <li>○「警察・消防・病院」が地域ごとに横の連携をしてチームを作る。(チーム作りのきっかけは行政が担当する。)チームを充実させることが、住民を呼び込むことにつながっていく。チームの単位は自分達に関わりのある単位がよい。(例えば、広域避難場所や小学校区など)</li> <li>○寿命が来ているかつての開発団地を、すべて壊して大きな住宅地を整備して、防災対策も含めた新しいまちづくり、都市の再構築を行えないか。(対症療法でないまちづくりが必要。)</li> <li>○自治会に属さない市民に対する行政のケアが必要。市職員・学校教師・お巡りさんが地域と一緒に活動する職住コミュニケーションを考えていかねばならない。</li> <li>○横浜の特徴としては、かつての下町のように人が集まって助け合ってやっていた部分と、サービスの対価を金銭でまかなう部分と、両方を都市像として考えるべき。</li> </ul>	<p>⇒都市像の方向性Ⅰ</p> <p>⇒都市像の方向性Ⅱ</p> <p>⇒都市像の方向性Ⅲ</p>
	効率的・効果的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都市経営の視点から「小さな政府」について考えることで、「費用対効果」や「集中と選択」につながってくる。</li> <li>○区役所の単位をもう少し整理統合し、サービス提供主体としての合理化を図るという考え方もできる。</li> <li>○いくつかの区役所では、職員が地区を担当する制度とするなど、区役所と地域のかかわり方が変わろうとしている。区役所職員に求められる能力も、正確な事務処理能力に加え、地域課題などの分析力、政策の企画力・市民との折衝力などが求められていると考えられる。</li> <li>○「小さな政府」という言葉は、サービスを受ける立場からは、サービスが小さくなるイメージになるため、誤解を受けないようにする必要がある。現在は行政が「企画から実行まで」を担っているのを見直すという話で説明すべき。</li> <li>○効果的な行政運営のためには、市役所が「創造力」を発揮すべき。</li> <li>○区職員の人事異動が早いと、行政と地域との関係をたびたび改めて構築する必要が生じるのが問題である。</li> <li>○区役所を今の行政枠に収まらない弾力的な制度としてもよいのではないか。(事務所の端末を場所的に広げるなど、もっと住民に近づく部分と、全市的にスペシャリストを育てる部分など。)</li> <li>○ハード(箱物)整備の時代からソフト整備への移行。施設によってではなく、情報インフラを整備して、住民の豊かさを求める。</li> <li>○18区を平等に機能させるのは最低ラインに合わせなければならないので無理が出てくる。より一層、区の力を高めるために区の再編成も考えてはどうか。</li> <li>○「小さな」というよりも「効率的な」政府、必然的にスリムになるイメージで考えるべき。トータルの市民サービスを維持するために行政はどこを担うのか、「公」の役割はどこまでなのかを整理して、市民に理解してもらう必要がある。</li> <li>○東京23区よりも租税の負担感が少ないし、義務教育も充実している、といったあたりを横浜の特徴にすればよいのではないか。(公立の小中学校を充実して、家庭の教育費負担を減らすなど。)</li> <li>○「小さな政府」を作ること自体が目的になるような表現は適当でない。「多様なサービスをどう分担するか」の解決策として『小さな政府』を想定するなど、本来の目的を前面に出した表現とすべき。</li> </ul>	<p>⇒都市像の方向性Ⅳ</p>
	説明責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行政が担うべき「責任の範囲」を明確化しておくべき。</li> <li>○企画から実施までを切り分けて、官でなければできない範囲を、市民や外部の目を入れて行うべき。また、業績評価システムを併せて構築する。</li> </ul>	<p>⇒都市像の方向性Ⅳ</p>
	大都市として国や県との関係 近隣自治体との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>○横浜の発展を考えていった場合、国の下にすぐ横浜市があるぐらいのイメージでいくと広域自治体を想定する必要はないのではないか。</li> <li>○日本の港都として発展し、世界的な認知を受けることが、横浜に寄与するのではないか。</li> <li>○横浜は職住近接でない発展を前提に施策を進めてきたが、今後、それを求めるのが問題。(職住近接は、環境負荷軽減や高齢化・空洞化への対策となる。)</li> <li>○港・観光はセットになっているので、横浜でも山側の方のイメージをどう作ってアピールするか。これを考えることが新しい横浜像を作ることになるのではないか。</li> <li>○広域自治体をはじめから想定するのではなく、国と横浜市との関係整理の中で警察事務などを整理していくべき。</li> <li>○自分達で政策を作り、実施し、責任を持つという、自立的な都市を目指す必要がある。</li> <li>○横浜市が政策的に自立し、独自性を持つことは重要だが、それ以外にも、市民・周辺都市・国などに対する社会的責任を、市としてどう果たすかが大事である。</li> </ul>	<p>⇒都市像の方向性Ⅴ</p>